

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400821		
法人名	株式会社武上		
事業所名	グループホーム ノーマライ心の花御成		
所在地	千葉県若葉区下田町1263-56		
自己評価作成日	平成28年10月14日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム名の由来であるノーマライゼーションの理念の基、障害(認知症)があっても職員が常に入居者の側で共に暮らしサポートする事により、障害のない人と同じように普通に生活していけると考え実践している。そして入居者の方々のそれぞれの世界に寄り添いながら、入居者の立場に立って援助し、穏かな日々を送って頂いている。また希望があれば看取りを実施しており、開設から12年半になるが、14名の方を見送っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ユニットレンド 株式会社		
所在地	千葉県柏市中央 2-9-16		
訪問調査日	平成28年11月 4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「明るく、楽しく、笑顔で、共にくらす。そして、人として心に花を咲かそう」をホームの理念とし、職員は常に入居者に寄り添い誰ひとり放置されることの無いよう、ホームでの生活は具現化されている。特筆すべきは、毎月、入居者個々の状況を「個別に」ご家族に報告し、ホームでの生活ぶりをご家族と共有して支援している事である。さらに介護職員とは別に調理・清掃の専門職員を雇用することで、高齢化・重度化する入居者への対応の充実を図っている。代表者・管理者の長年にわたる認知症ケアの経験・実績(OJTによる豊富な知識と技術)は必要な場面で適切に展開され、全職員が共通認識のもと介護・介助に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく楽しく笑顔で共に暮らす、そして心に花を咲かそう」を理念に掲げ、カンファレンスや日々の業務で、管理者と職員はその理念を共有し実践している。	理念を共有した職員が“笑顔になってもらい、心に花を咲かせるために、一日一回は笑ってもらうこと”を、言葉使いに配慮しながら取り組んでいる。全職員が理念の具現化のため明るく笑顔で取り組んでいる。	理念・目標の具現化のために、事業者・職員が一体となって取り組んでいる。調理・清掃などの専門職員の短時間雇用により、介護職員が常に入居者に寄り添う支援が実現している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会に加入し、地域の夏祭りなど行事があれば参加している。また毎年地域の方を招いて夏祭りを行い、地域住民の方との交流を深めている。	入居者の高齢化・重度化に伴い全員が参加することが困難になってきているものの、自治会の親睦会などの行事への参加や、近所の住民・子供たちを招待して夏祭りなど季節のイベント等を一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	掲示板を活用し地域の方からの相談を受け付けている。また自治会の役員として活動し、これまでの経緯を通じて得た認知症の人の理解や支援方法などを地域の方に向けて広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で民生委員、地域住民、地域包括支援センターの方から出された意見を積極的に取り入れ、日々のケアやサービスの向上に活かしている。	民生委員・安心ケアセンター職員・自治会長などが参加する運営推進会議を三ヶ月に一回開催している。活動報告・入居者の状況その他の議題について話し合い、結果は入居者家族にも報告され、日々のケアやサービス向上に反映される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者若しくは役員が三ヶ月に一度の運営推進会議において、入居者の立場に立った意見を包括支援センターの市町村担当に伝えている。	安心ケアセンターの担当者が直近の市の関係者であり、事業所の状況を入居者の立場から運営推進会議の席で伝えている。なお、介護相談員の受け入れについて、毎回お願いしているが行政側の方針で2年毎の入れ替えになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び職員は、御本人に合わせた個別対応を行うことで玄関等の施錠を含めた身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	個別対応をきめ細かくすることで、施錠や身体拘束をしない介護となっている。管理者などが「虐待防止」に関する研修に参加し、カンファレンスや勉強会などにおいて職員に伝え理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者等が研修に参加し、定期的にカンファレンスや連絡帳、勉強会等を通して職員に伝達し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者と管理者が十分に理解し、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時のみならず、必要に応じて利用者や御家族が理解されるまで十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等を通して、日々のコミュニケーションを密にして意見や要望を気軽に言えるような信頼関係を築いている。また年に一度の家族会で出た意見を運営に反映させている。	面会時のご家族の意見や希望、家族会で聞き取った意見などを運営に反映させている。また、ご家族への毎月の便り(入居者の状況を個別に報告)に対する、ご家族からの意見をも運営に反映させている。	ご家族へのアンケート調査において、〈ご家族からの要望〉〈ご家族への報告〉などの項目では、その対応について「満足」の回答が90%と、2年前に比べ大幅に改善している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は月1回のカンファレンスだけでなく、日頃から職員とのコミュニケーションを図り話をする機会を多く設けるようにし、意見や提案を聞くようにしている。	月一回開催されるカンファレンスが提案できる場となっているが、日頃から個別面談等を通して職員と意思の疎通を図り信頼関係を構築し、意見・アイデアや気づきを聞き取り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員各々と十分にコミュニケーションを取り、それぞれの勤務状況等を把握し評価する事でやりがいや向上心を持って働けるような環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は内部研修のみならず外部への研修の機会を設け、職員の能力を伸ばせるように努めている。また働きながらのスキルアップを目指し、資格取得の支援に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は日頃から同業者との交流を深めネットワーク作りをしているものの、職員が同業者と交流する機会は十分に設けられていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームでの生活において御本人の不安を軽減できるように丁寧にニーズを把握し、安心して暮らせるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階から御家族とのコミュニケーションをまめにながら、信頼関係を築いていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の段階から御本人と御家族の一番のニーズを把握し、必要なサービスを受けられるように支援していくことに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に御本人の立場に立って考え、御本人のペースに合わせて介助を「してあげる」のではなく「一緒に暮らす」ことが出来る関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は日頃から面会や行事などを通して御家族ともコミュニケーションを図りながら、御本人と御家族のこれまでの関係も踏まえて、御家族と共に御本人を支えていけるような関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族だけでなく友人や知人の方がいつでも気軽に面会できるような環境を作り、御本人がこれまで大切にしてきた関係が途切れないように支援している。	事業所は、日々密度の高い(多くの職員で)「寄り添う支援」に努めている。また、毎月の便り(入居者の状況を個別に報告)や自治会館における家族会の開催などを通じて、家族とのコミュニケーションを深め、関係者と共に支える環境作りを行っている。	ご家族へのアンケート調査において、〈気軽に訪ねて行きやすい〉〈本人は満足していると思う〉〈家族も満足〉などの項目では、満足の回答が何れも80%以上と、2年前に比べ大幅に改善している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には入居者同士のトラブルもあるが、職員が早めに間に入ることで大きなトラブルを未然に防いでいる。そして互いに支え合える関係を築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時又は退去後も必要に応じて他のサービスの支援や介護その他の相談にも対応するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の状態によっては御本人の意向等を把握するのが難しい事もあるが、これまでの生活等から御本人の思いを出来る限り尊重していけるよう、御家族からもアンケートを書いて頂くと共に話を聞きながら対応している。	入居者の高齢化・重度化により把握しにくくなっているが、日々の関わりのなか本人の思いや喜び、気づいたことなどを細かく記録して本人の生活に活かし、家族と相談し情報を得るなど、一人ひとりの思いを尊重した生活支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人だけでなく御家族からも話を聞くと共にアンケートを書いて頂き、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者1日の様子を細かに観察し記録をすることで、一人一人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は日々の生活で気付いた事などを記録し、それに加えて毎月のカンファレンスで状況や問題点などを取り上げて職員で検討しケアプランに活かしている。またその結果を御家族に送り、御家族の要望も取り入れるようにしている。	毎日、食事・排泄や生活の様子などを記録し、情報を共有している。月一回のカンファレンスで入居者の状況・問題点・課題等を検討し、この結果がケアプランに活かされている。なお、この場で検討された事柄は個別の一覧表にしてご家族に報告している。	食事量・排泄などの行動の把握や生活の様子などを細かく記録し、ケアプランに活かしている。また、これら記録をご家族に送り、ご家族の要望も取り入れてケアプランを完成させるなど、協働した取り組みが継続されている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日一枚一人ずつ、食事、排泄や生活の様子などを記録に残し、職員間でその情報を共有しながら日々のケアやケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の希望を聞きながら、必要に応じて柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限り公園等の地域設備を利用したり、認知症に理解ある地域住民の方との交流を図る事で御本人が安全で豊かな暮らしを送れるような地域資源の活用を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人と御家族の希望に応じ、入居前からのかかりつけ医に受診している場合も受診に同行し連携を図っている。特に希望が無い場合は定期的な往診だけでなく、何かあれば24時間体制で適切な医療が受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医を継続する入居者もいるものの、ほとんどはホームの嘱託医がかかりつけ医となる。受診時は職員が付き添い緊急時も同様である。主治医とは常に連携を図って、適切な医療を受けられるように配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の様子を観察し、何かあれば些細な事でもすぐに看護職員へ相談し、個々の入居者が適切な受診等を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には病院との連携を図り、不安なく安心して治療でき早期に退院できるように、情報交換や関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にターミナルケアについて説明し、希望があればその時々状況に応じて御家族と相談しながら御本人の意思を尊重したケアを行っている。	入居の際にターミナルケアについて説明している。その後は、主治医からメリット・デメリットを詳しく伝えてもらい、個々の状況に応じてご家族・主治医などと方針を共有し、入居者の要望に沿って支援している。	ターミナルケアを希望する入居者・ご家族には出来る限り応えられるようにしている。なお、開設以来約12年半であるが14名の方を看取りにてお送りしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命講習を受けると共に、カンファレンス等を通して定期的に勉強会を行うことで急変や事故発生時に備えて訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を実施し災害時にも対応できるようにしている。また地域の消防訓練に参加したり地域の方にもホームの訓練に参加して頂くようにしている。	事業所の年二回(春・秋)の避難訓練には地域の方の参加もある。さらに、地域の避難訓練に参加して協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人のペースに合わせ、その人らしい生活を送れるよう言葉かけや対応に配慮している。	事業者が重視している項目の一つで、常に職員に思いを伝え指導されている。今も職員は日々のケアで、「言葉遣いに配慮する、笑顔で落ち着いて、一日一回は笑っていただく」など、一人ひとりが目標を持ち対応することを心がけている。	全職員が入居者一人ひとりを尊重し、「心に花を咲かせてもらう」ために取り組んでいる。これからも是非この姿勢を貫いてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が進行しても出来る限り御本人の思いや意思を尊重して過ごせるように働きかけている。重度化によりそれが困難な場合でも、御家族と相談しながら御本人の思いに沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や職員の都合を優先するのではなく一人一人のペースに合わせることを最優先し、御本人の希望に沿った生活を送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好みにあわせた服装やおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の入居者の得意な事を把握し、調理や片付け等分担して行っている。また食事を提供するだけでなく、その季節の旬の食材を取り入れ食べる楽しみをもって頂いている。	入居者の約半数は手伝いが出来、下拵えや食事の準備・後片付けなどを行う。食事は、一日を通じ十分な栄養と水分が摂れるように、個々の好みや状態に合わせた内容・形態を工夫している。時間にとらわれずに食事への喜びを感じてもらえるよう支援している。	入居者が入れ替わり、2年前に比べ自立度の高い入居者が増えた。これを機にグループホーム本来の自立者支援の運営体制が維持されるよう期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	軽度の方も重度の方も一日を通じて十分な栄養と水分が摂れるように、それぞれの好みや状態に合わせた内容、形態を工夫し、時間にとらわれずに摂取して頂くように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、セッティング等、それぞれに合わせた方法で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し排泄の失敗を減らせるように、習慣を活かして声掛けや誘導等必要に応じてトイレでの排泄が出来るような支援を行っている。	排泄は全て記録される。さらに日々の様子の観察を怠らず、一人ひとりの排泄パターンが把握されている。日中は個々の排泄のサインを見逃さず、出来る限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には排便を促す飲食物を提供するだけでなく、散歩や体操等出来るだけ身体を動かすようにし、それぞれに合わせた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日を決めているが、希望に応じてその都度対応をしている。また一人ずつお湯を入れ替え掃除をする事で感染症を防ぐと共に、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週3回を基本としているが希望すればいつでも入れる。機械浴の設備も整えられ、重度の入居者にも何時でも入浴対応ができる。一人が入浴する都度、浴槽を清掃し湯を入れ替え、一番風呂を楽しんでもらうと共に感染症の予防に繋げている。	この取り組みは特筆すべきもので、素晴らしいの一語に尽きる。職員は大変であろうが今後とも是非継続して欲している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃からの観察により生活や睡眠パターンを把握し、それぞれのその時の状況に合わせて、休息したり気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が一人一人の服用している薬について理解できるように資料等を作成して対応している。また症状に合わせて服薬できるように日々の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の入居者のこれまでの生活スタイル等を活かし、それぞれが役割を持ち張り合いのある日々を過ごして頂けるよう、個々に合わせた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り行きたい所や召し上がりたい物をお聞きし、好みに合わせて個別でも希望に沿って出掛けるようにしている。	入居者の希望に出来るだけ沿うよう意識して取り組む。重度で訴えることが出来ない方でも、過去の生活歴や嗜好を把握して出掛けるように心がけている。さらに個別に希望に沿って出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて買い物に行き、好きな物を買ってお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御希望があればその都度対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が生活する上でそれぞれの場所が落ち着ける場所であるように、様々な面に配慮した環境を作っている。	共有スペースは、適切な温度・湿度に保たれていて、緑豊かな外の景色も広がっている。トイレ・浴室・廊下は広く車椅子利用者もスムーズに利用することが出来る。一人で居室にいるのは寂しいと、ほとんどの入居者が他の仲間や職員と歓談や歌を楽しみながら共有空間で過ごしている。	介護・介助の職員の他に、短時間勤務ではあるが調理・清掃の専門職員が配置され、入居者が孤立して過ごす場面がないように、手厚い職員配置がなされる。ホームの負担は大きいとおもわれるが、是非とも続けられるよう願う。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段の食事の席だけでなくソファーや他の席などで入居者同士で過ごしたり、時には一人で過ごせるような空間を作る等工夫して対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には御本人の馴染みの物や好みの物を置くようにして、居心地良い環境を作るように工夫している。	ゆったりとした居室には、入居前に使用されていた馴染みの家具や小物が持ち込まれ、入居前と変わらない環境で過ごすことが出来る。なお、馴染みの物を持参できなかった入居者にはホームから提供されることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体機能や残存能力を活かして出来るだけ自立した生活が送れるように、敢えて必要以上に手を加えずに室内の環境整備も工夫している。		